まなびと+ Plus
vol.4

日文教育資料［図画工作・美術］

この作品から，生徒が見えた

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！ 日文 検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

作品に出合い，先生を訪ねると，生徒の姿が見えてくる。生徒の笑顔，つくる喜び，美術の楽しさが目に浮かんでくる。

今回の「まなびと+」では，魅力溢れる，東京都の3名の先生方の授業実践を紹介します。

※記事は，４名（岩崎恵・奥井伸・櫻井妃呂子・福田龍郎）が取材した内容に基づいています。

櫻井（さくらい） 希佳（しずか） 先生
武蔵野市立第三中学校

木場（こば） 隆晃（たかあき） 先生
立川市立第七中学校

高澤（たかざわ） 健太郎（けんたろう） 先生
大田区立安方中学校
（実践時は世田谷区立弦巻中学校）

1年の実践

題材名；仮面～もう一人の自分さがし～　実践者　武蔵野市立第三中学校　**櫻井希佳先生**

横40cm×縦30cm
×高さ2cm

横35cm×縦21cm
×高さ6cm

横22cm×縦26cm×高さ9cm

Q 普段の授業で大切にしていることは何ですか？

A 表現でも鑑賞でも，脳がグワァーと動き出したり，生徒が身を乗り出したりする瞬間があるじゃないですか。そんな心が揺さぶられるような授業を常に心がけています。

Q 題材のねらいは何ですか？

A １年生の２学期という時期に，自分の内面をじっくり見つめる機会を設けたいと思っていました。うまいへたにこだわらず，内面を見つめることが大事だよと話をしています。自由な表現を確保するために，題材名にはこだわらなくていいよと伝えています。

Q “仮面～もう一人の自分さがし～”という題材名にしたのはどうしてですか？

A 発想の段階では，ワークシートをもとに，「自分から見た自分」，「他人から見た自分」，最後には，「理想の自分」という三つの項目について，“自分”への見方を考え，深めていきます。粘土でつくる感触も楽しいらしく，自然と気持ちが乗ってくるようです。完成した作品は，私のイメージしたゴールを超えていったというのが正直な感想です。

櫻井先生 語る

今は，授業時間数が少ない。その限られた時間の中ですべての生徒に美術の力を身につけさせなければなりません。なので，授業の１時間１時間が真剣勝負です。

授業では，作品の完成度と同時に，発想を重視。だから，ワークシートを工夫しています。去年より今年の方が発想が広がり，多様な作品ができました。

美術の教員という仕事が本当に楽しい。本当に楽しいんですよ，思った以上に。

時間数	10時間
材料・用具	のびる軽量粘土　針金　モール　綿 自分で使いたいもの　ワークシート
指導のポイント	材料と関わる中で，自分なりの表現方法を見つけさせる。
評価のポイント	心の中のイメージから発想して想像力を発揮できたか。制作しながら色や材料の特性を生かして表現できたか。

2年の実践　題材名；張り子の動物　実践者　立川市立第七中学校　木場隆晃先生

横15cm×縦22cm×奥行14cm

横15cm×縦22cm×奥行17cm

横15cm×縦22cm×奥行11cm

Q 普段の授業で大切にしていることは何ですか？

A 子どもたちは映像文化に囲まれているので，自然のものに触れるとか手づくりのもののよさを味わってもらいたいと考えています。つくることで本物のよさを味わってもらいたいのです。

Q この張り子の作品をつくるに至った経緯について教えてください。

A 子どもたちは，漫画的なものは描けても，実生活では正面から見たり，上から見たり，横から見たりした絵をつくる習慣がありません。立体でつくる彫刻で，頭や目，口，鼻があってという立体的感覚がないと感じていました。実際の授業を考えた時に，張り子ならできると思いつきました。のみを使ってはがす作業も，今までにない喜びがありました。

Q 写真はどのような経緯で取り入れたのですか？

A 以前，APA（日本広告写真家協会）の協力で授業をしたことがあったので，この題材とタイアップして，つくって終わりではなくプレゼンまでやってみようと思いました。絵は苦手な子もいますが，写真だったら手っ取り早くやることができます。これは私にとって新鮮な出合いでした。今の子どもたちは，映像や画像の感覚には優れています。ここに置いたらいいとか，感覚的な判断はできます。新しい発見でした。一つの題材で，子どもたちの中に発表までの様々な過程，試みがあったのではないでしょうか。写真を撮ることで，実はこういう見方をしていたのかと，初めて気づかされることも多かったです。

木場先生　申す

私は，これからを担う子どもたちに，文化的なことにも興味を持つ土台や魅力を提供したい。作品を見せるためではなく，子どもたちの中に何を育てるのかというために，美術に取り組んでいます。そのためには，つくる喜びや過程を大事にしなければならないし，そのことが，つくる側だけでなく，見る側の力も培っていくと思うんですよ。

これまで出会った子どもたちの中には，思ったように表現できなくても，よく考え分析している子もいました。これは評価しないといけない。見映えがいいとかよくないとかといった表面的なことよりも大切なことがあります。長く残っている芸術には，目には見えない，芯があると思いませんか。

時間数	10～12時間
材料・用具	粘土　紙粘土　新聞紙の芯　コルク板（台） 和紙　接着剤ボンド　張り子のセット 水彩絵の具　デジタルカメラ（１台ずつ）
指導のポイント	本物を見る目を養うことが一番の目的。そのために事前に資料や材料を自分なりにしっかり集めているか，対象をしっかり観察しているかを特に気をつけて指導している。
評価のポイント	作品；形にリアル感があるか。色のつけ方が工夫されているか。 写真；場所が工夫されているか。どんな見立てがあるか。

3年の実践

題材名；コラージュの自画像　実践者　大田区立安方中学校　**高澤健太郎先生**

（世田谷区立弦巻中学校の生徒作品を掲載）

掲載した図はすべて，横35cm×縦40cm

Q 普段の授業で大切にしていることは何ですか？

A 普通とか常識とか，既成概念というものは普段は守らなければならないものですが，美術の時間では，生徒たちにその枠を越えて欲しいと常々思っています。そうすることで，自由に創造することができるようになるからです。だから授業では，「こうしなければいけない」という言葉は，極力使わないように気をつけています。

Q 今回取り上げた作品の主題やテーマは何ですか？

A 1，2年生の時には，私の方からこうしなさいと指示することが多かったのですが，3年生になった生徒たちには，自分で構成を考えさせたいという思いがありました。それに加えて，自分を見つめてもらいたいという考えもあって，自画像を選びました。自画像を，自分で選びとった素材を使ってコラージュすることで，ただ自画像をデッサンや着彩するよりも，一人ひとりの個性が出ると思いました。また，下描きに貼りつける時に，今までに指導した明度や彩度のおさらいにもなると思いました。

高澤先生 つぶやく

将来，生徒が大人になった時に，美術であんな授業を受けたなと思い出して欲しい。そのために，私自身のオリジナリティーを大事にしています。また，技法や技術を意識するのではなく，風景や身近なものに対して，生徒一人ずつにそれぞれの美意識を持ってもらいたいので，鑑賞にも力を入れているんです。

時間数	10時間（下書きは春休みの宿題）
材料・用具	はさみ　スタンプ　網（スパッタリング用） ファッション誌などの各種カタログ
指導のポイント	ただ貼るだけでなく，陰影をつけさせる。正面ではなく，横を向いた方が明暗の調子が出やすいことを伝える。
評価のポイント	自分の個性を出せているか。全体の構成のバランスを意識して貼れているか。コラージュの特徴を作品に生かせているか。

まなびと+Plus vol.4

日文教育資料［図画工作・美術］

平成26年（2014年）9月10日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33248

日本文教出版 株式会社
http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690